熊日1964.01.10

水俣病治療に威力

"温泉病院"20日に着工

水俣市は湯之児に市立病院の分院として、温泉を利用した"リハビリテーション・センター"を建設することになり、昨年七月から敷き地の地ならし工事を進めているが、近く完了するので二十日午前十時半から本館の起工式を行なう。

同センターは鉄筋コンクリート二階建て、一部三階（将来は四階に拡張）延べ三千百坪万坪。総工費は一億五千万円。"水俣病患者"を社会復帰させるための治療と訓練が目的。八十四ベッドと各種機能障害にたいする回復訓練装置、温浴装置のほか九州でも初めてといわれる"塩水プール"などの施設を完備する。三十ベッドは水俣病患者を優先的に入院させるが、一般の患者も利用できる。

水俣病患者四人は昨年八月から約二カ月間、九大温泉治療学研究所（別府市）で、研究治療を受けたが、出発前と比べて一人で荷物を持って歩けるほど元気になって帰ってきた。不治といわれた水俣病の治療に"温泉泥浴"がすばらしい効果をあげたわけで、同温研の矢野教授の助言によって有明海の"海底土"を利用した泥浴施設もつくられることになっている。

市内の水俣病患者は現在六十八人いる。二十人が市立病院に入院、残りは自宅で療養を続けており、これら患者にとって同センターの建設は大きな福音といえる。

敷き地は前方に天草の島々を望み、背後に緑の山を控えた西湯之児温泉の風光明美なところで、環境にも非常に恵まれている。五月末ごろには完成の予定。